

立北スタイル ベースボール型ゲームの発達段階と系統性（平成27年度版）

学団	学年	今年度の取り組み				
		単元名	ゲームのルール	準備物	練習ゲーム	授業実践
高	6年	ヒッティングベースボール	<p>コート^{の形}：正三角形の三角ベース（ホーム、1塁、2塁） 塁間の距離：17m 1チームの人数：6年生5～6人 5年生5～6人 4年生5～6人 チーム数：計6チーム</p> <p>基本ルール・・・（5・6年生） ・ピッチャーは味方がする。（投げる場所はバッターの前方） ・打者一巡で攻守交代。 ・残塁制で行う。 ・守備はバッターが打つまでは6分割したコートの一つのエリアに入らなければいけない。バッターが打った後は自由に打球を追うことができる。 ・守備側はビート板を持つことができ、ビート板に当てればキャッチと同じ扱いとする。（場所の指定あり） ・1塁、2塁にはビート板を持ったベースマンを置く。ビート板に当てればキャッチと同じ扱いとする。</p> <p>ルールの違い・・・（4年生） ・ピッチャーではなく、コーンティー台の上にボールを置いて打つ。 ・他の基本的なルールは5・6年生と同じ。</p>	<p>4～6年生 得点板 ビブス PU（ポリウレタン） ボール PUバット 大型バット プラスチックバット ベース ビート板 対戦表 ストップウォッチ テニスボール サッカーゴール（ミニサイズ）</p>	<p>キャッチボール（補助運動）</p> <p>トスバッティング 5球バッティング 守備練習</p>	<p>成果○ ○「三振なし」のルールにしたことで子どもたちが思い切りバットを振って打つことができた。 ○「大型バット」を取り入れたことで遠くに飛ばせるようになり「守」にも目を向けさせることができた。</p> <p>課題● ●練習をコート6面で行っていたので教師がほとんど見る事ができなかった。</p>
	5年				<p>キャッチボール（補助運動）</p> <p>トスバッティング 3球バッティング 守備練習</p>	
4年	<p>キャッチボール（補助運動）</p> <p>ティーバッティング ボールを思いっきり打つゲーム 守備練習</p>				<p>成果○ ○初めての残塁制でゲームを行ったが、ルールを理解してゲームを楽しんでいた。 ○攻撃のねらいを「打つ強さや方向を工夫する」ではなく「思い切り打つ」ことに変えたことで、打つことを楽しんでいる様子が見られた。</p> <p>課題● ●コーンティー台は昨年度のティー台に比べて高さも調節でき、打ち損じも少なかったが、ボールが風に流されてうまく固定できなかった。</p>	
中	3年	スローイングベースボール	<p>コート^{の形}：正三角形の三角ベース（ホーム、1塁、2塁） 塁間の距離：15m 1チームの人数：3年生6～7人 2年生5～6人 1年生4～5人 チーム数：2・3年生計4チーム 1年生6チーム</p> <p>基本ルール・・・（1～3年生） ・攻撃は、ラインの後ろからボールを投げて行う。 ・投げたボールがフェアゾーンに入らなければやり直しとする。 ・打者一巡で攻守交代。 ・アウトにならずたどり着いた塁が得点になる。残塁制はなし。 3年生・・・（1塁＝1点、2塁＝2点、ホーム＝3点） 2年生・・・（1塁＝1点、ホーム＝2点、） 1年生・・・（1塁＝1点、コーンを回って再び塁にたどり着けば2点とする）。</p> <p>・守備は攻撃側が投げるまでは分割したコートの一つのエリアに入らなければいけない。攻撃側が投げた後は自由にボールを追うことができる。</p> <p>ルールの違い・・・（3年生） ・守備側はビート板を持つことができ、ビート板に当てればキャッチと同じ扱いとする。</p>	<p>1～3年生 得点板 ビブス PU（ポリウレタン） ボール ベース ビート板 対戦表 ストップウォッチ コーン PUボール</p>	<p>キャッチボール（補助運動）</p> <p>遠くへ投げろゲーム ねらえビート板ゲーム 素早くバンバン</p>	<p>成果○ ○オリエンテーションをしっかりとしたことによりゲームにスムーズに入ることができた。</p> <p>課題● ●1塁での攻防が少なかったため、1塁までの距離を伸ばしてもよかった。</p>
	2年				<p>キャッチボール（補助運動）</p> <p>ねらって投げるゲームA ねらって投げるゲームB 捕ったらすぐに投げるゲーム 走って守ってゲーム</p>	
1年	<p>キャッチボール（補助運動）</p> <p>ねらって投げるゲーム 捕ったらピュッ！ゲーム ビートでバン！ゲーム</p>				<p>成果○ ○キャッチボールの距離を遠くしたことで、体を大きく使い、全力で投げることができた。また、ゴロやバウンドなどいろいろなボールを捕る練習ができた。</p> <p>課題● ●練習ゲーム④では、ゲーム性を取り入れるとさらに子どもたちは熱中して取り組めたと感じた。</p>	